「愛の家」ニュース　NO. 41　2021年　12月

「ご挨拶」

牧師　朴栄子
（在日大韓基督教会・関西地方会副会長
豊中第一復興教会）

「なぜかハマるんです」

自称「愛の家」宣伝部長です。月に一度の説教の奉仕のバトンを 2006 年に召天した父から受け継ぎましたが、「『愛の家』症候群」ももらっちゃいました（笑）。なぜか、ハマるんです。奉仕に行く日は、ウキウキします。

そこにはシンプルにストレートに福音が語られ、それを聞く人々の姿があります。てんこ盛りの食事を求めて来る人々の通路に、ひっそり佇むイエスさまの姿を感じます。ひたすら与え尽くす奉仕に無休で励む、金先生夫妻とスタッフの姿を見ます。

いつでも新鮮でハッとさせられます。自分は何をしているのか。私利私欲でやっていなかったか。人の上に立つことばかり考えていなかったか。

「また、来てや」、「がんばってや」、「ありがとう」。そのように”おっちゃん”たちから励まされるのはいつもわたし。何かをしに行くのではなく、たくさんのものをもらって帰って来ていました。

悲しいことに昨年 3 月以来、木曜礼拝は休止のままなので、長らくみなさんにお会いできていません。しかし、コロナ禍で最も大変なのは路上生活者だということで、毎週のお弁当配布をすぐに開始されました。あちこちで開かれていた炊き出しがなくなったため需要は多く、衛生面に気遣いながらの弁当作りのため、もっと忙しくなったと伺いました。

一日も早い再開を祈っていますが、神さまの愛を分かちあうことは、そもそも年中無休。困難な状況の中、最も弱い人のために産声を上げた「愛の家」なので、転んでもただでは起きないのは当たり前なのかもしれません。

ぜひぜひ、「愛の家」ファミリーに加わってください。あなたのお祈り、献金、支援物資、ボランティアなどが、何倍にもなって大きな幸せをもたらすことは間違いなしです。ハマってくださいね！

「ご挨拶」

牧師　金鐘賢
（在日大韓基督教会
浪速教会「愛の家」）

「コロナ禍の中での炊き出し」

２年近く続いているコロナ禍の中で、私達浪速教会「愛の家」は、炊き出しを毎週２回行っています。教会での集会は、まだ行っておりません。コロナ禍での炊出しは以前よりも多くの人手が必要で、費用ももっとかかります。毎週木曜日の午前中に高架下で行っている木曜炊出しはお弁当を準備して配っています。来られる方の数は日によって違いますが、多いときは２００人以上が来られます。

木曜炊出しのために水曜日から調理の下準備をし、木曜日の朝には午前６時３０分からご飯を炊いたりおかずを作ったりして朝８時からはご飯とおかずをお弁当に詰める作業をします。妻はお弁当を作る作業を始める前に、「今日もイエス様に捧げるお弁当を作りましょう」と奉仕者たちに声をかけます。私達の炊き出しは、「最も小さき者一人にした事はイエス様にした事である」（マタイ 25：40）という御言葉に基づいて真心を込めて作ります。

３密を防ぐため朝の９時から１１時まで時間をかけてお弁当を配っています。炊き出しに来られた方が手ぶらで帰ることがないようにいつも気を付けています。不思議に信徒たちもボランティアの方々も朝から始まるこの奉仕を喜んで熱心に毎週欠かさず行ってくれています。炊き出しに来られる方々も感謝の気持ちを込めてプレゼントをしてくれたり、新聞、ダンボール、アルミ缶などを集めて持って来てくれたりしております。

炊き出しは神の業でありますから、神様ご自身が２５年間も続けられるように多くの支援者を通して必要を満たして下さいました。おにぎりとカップ麺を配る金曜炊き出しも以前より費用も手間もかかりますが、２年間続けられたことに感謝しております。

浪速教会「愛の家」の働きを覚え、支援して下さる支援者の皆様に心より感謝致します。今年も貧しい人々にとって最も生きづらい冬の寒波が襲って来ます。これからも私達浪速教会「愛の家」が、西成の貧しい方々に主の愛と福音を宣べ伝えていけるよう、皆様のお祈りとご支援をよろしくお願い致します。

「愛の家」の風景 www.ainoie.org

木曜・お弁当と御言葉メッセージ配り

毎週木曜日は朝７時過ぎからご飯炊きとお弁当作りが始まり、９時半に整理券を配り、１０時～１１時の間にお弁当(御言葉とショートメッセージ付き)とフードバンク支援のパン等を配っています。今年に入り参加人数が増えて猛暑の中でも約２００人前後の人々が食事の提供を心待ちにして来られます。コロナ下にあってもお手伝いをしたいという熱い想いを持ってお手伝いに来てくださる２人の女性がいらっしゃいます。２人とも教団も教会も住む地域も全く違いますが、献身的な姿に私たちも暑さと馴れた環境に身を正して頑張ろうと思うように励みになります。これを読んでくださっている皆様の様々な形のご支援も日々覚えて皆で感謝し祈りながら活動を続けています。いつも支えて下さり本当にありがとうございます。

↓前日の水曜日の午前に仕入し、午後に下準備をします↓

金曜・おにぎりとカップ麺配り・衣類提供会

浪速教会のおにぎりといえば「爆弾おにぎり」と名付けられているほど大きい（コンビニの三角おにぎり３～４ヶ分）です。作り始めてから２０年近くはごま塩一筋でしたが、最近では塩昆布の支援品が沢山届きましたので、カップ麺との塩分調整も考慮して塩昆布を少しだけ混ぜたお握りに変化しました。食事と一緒に御言葉とショートメッセージ付きの紙を入れて渡します。

衣類提供は夏に入る直前に半そで品を中心として配りました。大きいサイズの衣装ケース１５～１８ヶ分をトラックと乗用車２台に山積みにして運び込みますが、帰る時には４～５ケースくらいになっていました。２年前、コロナが始まる前は、この下の写真のように公園の並木通りにまで列を組むことはありませんでした。長蛇の列にびっくりすると共に、一般の方々が何の催しがあるのかと覗きに来られる事があります（笑）

西成公園はとても大きくて自然も多いので、おにぎりを受け取る前後で横になってお昼寝や散歩するおじさん達もいらっしゃいます。

韓国の宣教チームとのリモート交流

コロナ下で海外への往来が難しく、海外からの宣教チームの訪問がなくなってからもう２年になります。しかし、彼らは私たちをいつも覚えて「今できる方法で支援する」ことを行って下さっています。テレビ電話や動画を使ってのリモートを交流会、私たちの活動の宣伝をして献金を募ってくださったり、送料が高いので物を購入してくださいと送金してくださったり。リモートを通しての祈り合う姿が何よりも心強く支えになっています。ありがとうございます！

奉仕者の声

『草の根―世界の平和のための救霊へ』

平野　真希
（浪速教会　信徒）

16 年振りに『奉仕者の声』を 3 回目として書く機会をいただきました。前回の記事は No.9（2005 年 8 月号）で『全心全霊で仕えなさい』という題で洗礼までに至る信仰の証を記していました。

私は3人姉兄の末っ子として神戸で生まれ育ちました。祖母はｸﾘｽﾁｬﾝでしたが、その娘である私の母は家族の不幸に遭ってから「神など存在しない」として私や家族に話してきました。そして私は両親と同じように無神論者として社会人になるまで日本文化として神社仏閣を行事ごとに訪れては軽く参拝するという、宗教に深入りしない人の一人として、天地創造の神様を知らずに生きていました。

姉・兄とは６～８歳離れていることもあり、子どもの頃はあまり相手にしてもらえず、祖父がいつも私の面倒を見てくれていました。TV ｱﾆﾒ『ちびまる子ちゃん』の“まる子は”自分の幼少時代にそっくりだなと思います。姉・兄は勉強がよくできて神戸で上位の高校を狙える秀才でした。私は学校で先生の話を聞こうとしたり勉強をしようとすると体がむずむずして集中できず、教科書の内容が入ってこないで落書きばかりする、マンガを読んで漢字を知るという状態でした。当然ﾃｽﾄの点数は赤点ばかり。得意なのは副教科の音楽・体育・図工・家庭科、そして友達とよく遊ぶ、掃除をする等々でした。中学１年生の時、そんな私の将来を不安に思った母は部屋に閉じ籠もってしまいました。私は母を悲しませてしまって“自分はダメな子だ、消えるしかない”と思い、数日間自殺を考えました。そんな母の代わりにお昼ご飯のお弁当を父が作って持たせてくれました。ろくに料理をした事もない父が白ご飯の上に目玉焼きをのせただけのお弁当の蓋を開けて、色々な感情が込み上げて涙が溢れて止まらず、友達に見つからないように秘かに涙を拭いながら食べたことを今でも覚えています。ある日、帰宅すると母はいつも通りにふるまってくれました。私もこれからやり直してみようと思い直しました。でも体はまだまだ勉強に向き合うことができず、中学３年になる直前で「高校へ進学できなかったら社会に出て大変な事になる！」と突然悟ったかのように奮起し、一人で英語と数学を猛勉強し始めました。何とか高校へ行くことができ、更に次の進学を考えた時に、当時私は哺乳類の動物が大好きだったので、傷ついた野生動物の保護活動をしたいと夢を持ち、動物について学ぶ専門学校への進学を決めました。願書を提出しようとしたその日の朝、いつもはﾃﾚﾋﾞをつけないのに朝のﾆｭｰｽ番組を見ていると、その学校が破産して閉鎖されるというﾆｭｰｽを見ました。とてもｼｮｯｸでﾊﾟﾆｯｸになりました。その後、担任の先生が「聖和大学という学校はとても良い学校だぞ」と薦めてくださり、少しずつ聖書や礼拝、ｸﾘｽﾁｬﾝたちとの出会いの瞬間へと近づいていくようになりました。

大学卒業後はWCF という紛争地域での平和活動をする韓国のｸﾘｽﾁｬﾝ団体でﾎﾞﾗﾝﾃｨｱをしていました。東ﾃｨﾓｰﾙ、ｱﾌｶﾞﾆｽﾀﾝ、ﾊﾟｷｽﾀﾝ等へ行かせていただきました。何か役に立ちたい想いで赴きましたが、現地で生活して友達になる以外にはどんなﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄであっても私一人がした事は無に等しいとむなしさを感じました。でも大切な答えに辿り着くことができました。自然が壊れる事、動物が傷つく事、世界中で紛争や迫害・飢餓で人々が苦しむ事、日常生活で傷ついたり、傷つけ合ったりする事、それは全て人間の心の問題から生じる大なり小なりの結果だという事です。人の心（霊や魂）が救われることで生き方が変わり、それが周りの環境を変えていく、果ては世界の平和に繋がっているんだという結論に達しました。神様が私に一番最初に語ってくださったのは「全心全霊で野宿者や貧しい人・家のない人に仕えなさい」という言葉です。その時私には「家」という意味はこの世で住む家（建物）としか理解できず「なぜ神様は私に“野宿者”と“家のない人”両方を語ったんだろう？」と疑問に思っていました。しかし今は「霊が救われて住める家＝永遠の家＝天国」の事だと確信しています。

「わたしはあなたを母の胎内に造る前からあなたを知っていた（ｴﾚﾐﾔ書 1:5）」勉強ができなかった私ですが、今となっては教科書の知識だけに縛られずに自由な発想ができるように、又自分で学ぶ力を養うためだった、他の苦い経験を反対に考えても、全てが神様の恵みと守りだったのだと確信しています。私自身の霊が救われた事で環境も少しずつ変わってきています。人間の心や魂というのは草の根のように見えづらく手が届きにくく解決しにくいです。でも、その根っこが解決されないと問題は永遠に解決されないどころか、どんどん広がり大きくなるばかりです。教会や炊き出しに集う皆さんも心（霊）の救いと平和が必要です。これからも主のお導きと皆様の温かいご支援のもと、新しい命を守り育みながら、皆で共に心や魂の救いのため、天国を目ざして歩んでいきたいです。

特集　「愛の家」の恩人⑪

藤澤暎夫（ふじさわ てるお）さん

（浪速教会 名誉執事）

柔和な人々は、幸いである、／その人たちは地を受け継ぐ。（マタイ 5:5）

憐れみ深い人々は、幸いである、／その人たちは憐れみを受ける。（マタイ 5:7）

私が藤澤兄弟と出逢ったのは、2005 年 6 月、彼は当時 64 歳でした。野宿生活を余儀なくされている一番困難な時に、私達の導きによって生活保護を受け、浪速ファミリーの一員となりました。当時「愛の家」は、野宿生活者が屋根のある自分の部屋に暮らしつつ、助け合って生きる事ができるような福祉部屋を作ろうとしていました。資金がないので借地物件や人から借りた物件をリフォームして、一人でも多くの人が野宿から抜け出せるようにと、経験も腕もない素人の私たちが工事をしていました。 藤澤兄弟は大工だったので、そのリフォーム工事に加わり、多くの福祉部屋を作る奉仕をしてくれました。彼はただ工事をするのではなく、住居者の立場に立ってできるだけ良い材料で丁寧な工事を、と細かいところまで誠意をもって作業してくれました。韓国人の私は、彼の働くさまから「日本の職人魂」を学びました。 2007 年 7 月からは浪速教会教会堂及び「愛の家」の工事が始まりました。中古物件を購入して約 100 坪以上の面積を教会堂にリフォームする大規模な工事でした。業者と私たちが一緒に働きましたが、なかなか作業が進みません。その時一番長く真面目に働いたのが藤澤兄弟だったのです。今の教会堂には彼の汗、また彼の技が残っています。

藤澤兄弟は柔和で憐れみ深い人です。誰かの自転車がパンクすると、自分の手を汚しながら修理してくれます。精神障害を持っている若い青年の話をよく聞き、必要な助けをします。そんな藤澤兄弟の姿に、私は感動を受け、尊敬の念を抱くのであります。 度々貧しい仲間に密かにお金を渡して励まし、子ども達におやつを買ってきてくれます。韓国からの宣教チームが来たら果物やお菓子をいっぱい買って来てプレゼントするのが好きです（今はコロナでできませんが…）。 そんな彼も、年と共に病気を患う事があります。何年か前には重篤な病気で入院することもありました。その時に自分を看病し、励ましてくれた市川兄弟、元浦兄弟に対しては今も感謝し、その時の恩を忘れない律儀な人です。彼のあだ名はレッサーパンダです。いつも笑顔で手を振る姿からそう呼ばれるようになりました。病に苦しむ時でも、いつも喜び、感謝して生きる私達の大事な人生の先輩が、これからも元気で私達に笑顔をプレゼントしてくれるようにと祈ります。

「愛の家」会計中間報告書(2021.3.1-10.31)

収入	21 予算	2021.1-10
定期後援会	800,000	517,500
一般後援会	1,400,000	1,559,099
クリスマス献金	1,400,000	273,500
食事献金	100,000	0
総会支援金	300,000	200,000
地方会支援金	450,000	315,000
御米献金	100,000	28,500
小計	**4,550,000**	**2,893,599**
繰越金	**994,395**	**994,395**
合計	**5,544,395**	**3,887,994**

支出	21 予算	2021.1-10
事務・備品・印刷費	350,000	171,068
発送費	100,000	37,480
交通費	10,000	0
車両維持費	200,000	74,729
奉仕者支援金	400,000	43,069
研修費	100,000	0
御米代	500,000	475,239
副食費	1,800,000	1,885,873
建築積立金	1,000,000	500,000
救済費	50,000	12,725
修理施設費・予備費	1,034,395	12,250
小計	**5,544,395**	**3,212,433**
繰越金	–	**675,561**
合計	**5,544,395**	**3,887,994**

前頁「奉仕者の声」より … … 平野真希　執事

➡「愛の家」恩人より … … 藤澤暎夫 名誉執事

路上生活者支援のための
クリスマス献金のお願い

御子イエスのお誕生を待ち望む季節となりました。支援者の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。平素は私ども、浪速教会「愛の家」の活動へのご理解、ご協力を賜り、まことにありがとうございます。

2021年も、浪速教会「愛の家」は支援者の皆様からの多くの愛を受け、その愛を分かち合う活動ができましたことを心より感謝申し上げます。

昨年度に引き続き今年もコロナ流行が続き、浪速教会「愛の家」の炊き出しも大きな影響を受け続けています。そんな中、創立以来続けてきた木曜集会と金曜炊き出しは、プログラムを変更して継続をすることができました。西成地区の多くの炊き出しが感染対策に困難を覚えて活動を中止する中でこのように継続できましたのはひとえに神様の御力と皆様の支援のお陰です。木曜炊き出し（み言葉メッセージ入りお弁当）には常時160～200人、金曜炊き出し（お握りとカップ麺）には約１６０人～２２０人の路上生活者へ食事の提供とみ言葉のメッセージをお渡しすることができました。この炊き出しの実際の経費として、毎週６３,000円を支出しております。(内訳概算お米６０kg・１８,000円、副食費45,000円、コロナ前の経費合計は約５７,000円)

だんだんと風の冷たさが身にしみてくるこの季節、路上生活を余儀なくされている西成の人々にはますます過酷な季節になります。コロナにより当教会が休止中の生活相談、生活用品収集分配、伝道集会、散髪、シャワー奉仕などの再開がそう遠くないよう、西成の皆さんが無事に冬を乗り越えていくことができますように、お祈りください。また一人でも多くの西成の仲間が、主に出会い、主に新たにされて、残りの人生を主と共に歩む決心へと導かれますよう、お祈りくださいますよう重ねてお願い申し上げます。

クリスマスは、創造主なる神が私たちの受けるべき罪の代償を担わせるために、独り子イエス様をこの地に送ってくださったその恵みの深さに感謝をささげる時です。2021年も誠実に恵んでくださった神様に感謝を表すため、日本社会の底辺においやられ、衣食住にさえ事欠く西成の皆様のために、どうぞ寛大に捧げていただきますようによろしくお願いをいたします。

『あなたがたによく言っておく。わたしの兄弟である
これらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』

２０２１年度　献金目標額：100万円

✧　定期、一般後援者募集
一般後援：1000円以上、　定期後援：毎月1000円以上

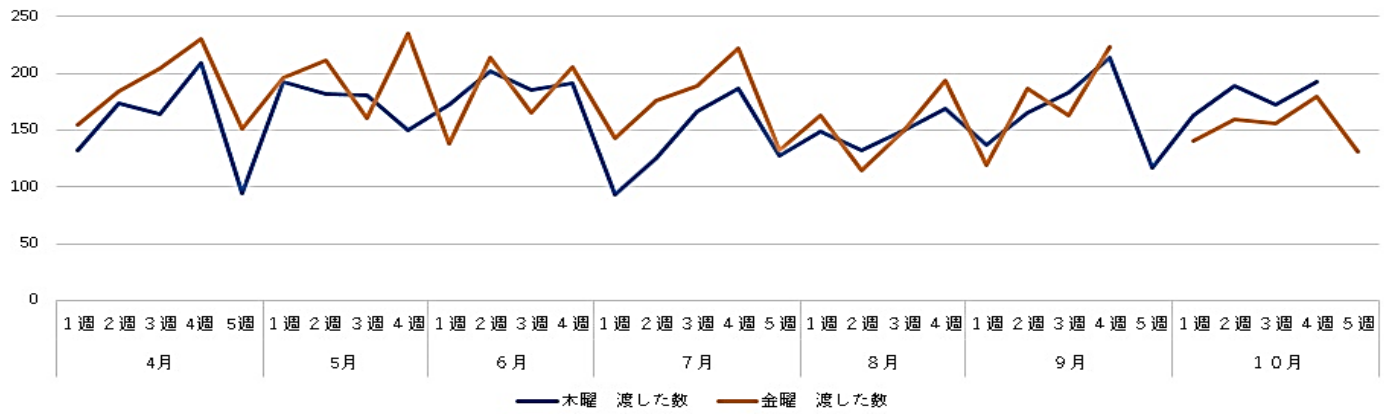
✧　衣類、生活用品、靴、靴下、下着、鞄、タオル、ホッカイロ、食材、お米を送って下さい（スーツ類は需要が少なくなっています）

献金振込先（ゆうちょ銀行）
金融機関コード：9900　　店番：99　　預金種目：当座
店名：〇九九店（ゼロキユウキユウ店）　　口座番号：299392
口座名：在日大韓基督教会浪速教会

〒557-0061　大阪市西成区北津守3-2-3浪速教会「愛の家」
Tel　06-6561-4712、6562-0109、　Fax　6561-4709
E-mail:ainoie@msn.com　　ホームページ：www.ainoie.org

２０２１年１２月
在日大韓基督教会　浪速教会「愛の家」
金　鐘　賢　牧師

炊き出し　参加者数　統計　2021.４～１０月



献金者お名前（敬称略･順不同）
（2021年3月1日～2021年10月31日）

- **定期後援金**
  グッド･サマリタン･チャーチ　大阪淡路チャペル･洲本チャペル、大阪東南キリスト教会、在日大韓基督教会総会、在日大韓基督教会関西地方会、川西教会、大阪北部教会女性会、ホサナ教会、山住達樹、石井洋二、河内常男, 寺岡孝、古川富也、新国久男、河内常男、朴栄子、金景淑、吉村俊郎、ブロックソム泰子、金栄吉･李香蘭、金鐘賢･姜貞淑、大木正典、金英姫･森元孝、市川和俊、平野竜一･真希、匿名
- **一般後援金、イースター献金**
  KCCJ関西地方会女性連合会、韓国大邱忠誠教会、カナダメノナイトブレザレン教団宣教団体、韓国オンヌリ教会青年会、金鐘賢、洲本チャペル、久保安子、重松絢子、宮下房子、岩坂二規、李順姫、寺岡孝、金森俊徳、武井三枝子、井上久夫、利岡勝司、野津道代、鈴木崇、藤岡、浅野間正勝、匿名
- **クリスマス献金**
  草加教会、南浦和教会、豊橋教会、堺教会、大井時子
- **お米、お米献金**
  洲本チャペル、韓国オンヌリ教会、野津道代、松城邦彦、河内常男、井上久夫、匿名
- **食材**
  フードバンク大阪、フードバンク関西, ガリラヤ農園　、(株)クリスチャンサービス、ぐるり農園、清水眞一･佐代子、佐々木ゆきえ、匿名
- **アルミ缶献金**
  「愛の家」に通う兄弟たち、北津守町の皆さん
- **衣類、靴、鞄、生活用品、ふとん類、マスク**
  グッド･サマリタン･チャーチ、女子ご受難会、松井明美、朴栄子、岡山教会、小形ハルミ、北津守町の人、韓国大邱ソンアン教会、浜名マリア、ぐるり農園、匿名

猛暑だった2021年の夏の日々が過ぎ去り、自然界では色とりどりに草木が姿を変えて秋が深まってまいりました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか？　昨年春から私たちを翻弄している新型コロナウィルスのニュースを聞かない日はなく、気をつけながら過ごす毎日が続いてもうすぐ2年を迎えようとしています。

私たち浪速教会「愛の家」を21年前から愛しご奉仕してくださったホサナ教会･心のケアセンター担任牧師であった金景淑（吉村景子）牧師が今年の9月15日に天に召されました。金牧師をご存知の方はこの知らせを聞くと「あまりにも突然すぎて信じられない」と思われることでしょう。金牧師はイエス様を愛することや祈りに賛美･伝道も説教も常にエネルギッシュで、周りを元気な雰囲気で包んでくださるお方でした。その方が突然天に召されたことを、私自身も未だに完全には受け入れられていないです。今年のイースター号の『奉仕者の声』には金牧師の今までの想いを綴っていただき、入院される2日前には新しい命を迎え出産する準備をしている私を配慮してくださるメッセージを送ってくださっていました。いつも己を土台にして主の愛する兄弟姉妹たちのために命をかけてきた金牧師を天国では盛大に迎えられ、栄の冠を受けていることと信じます。金景淑牧師任、御国で再会できる時を楽しみにしています。ありがとうございました！

発行責任者　金鐘賢
〒557-0061 大阪市西成区北津守 3-2-3
浪速教会「愛の家」内
TEL 06-6561-4712(教会)
E-mail: ainoie@msn.com
ホームページ: www.ainoie.org

献金振込先（ゆうちょ銀行）
金融機関コード：9900
店番：99
預金種目：当座
店名：〇九九店（ゼロキユウキユウ店）
口座番号：299392
口座名：在日大韓基督教会浪速教会